

脳科学からプレイバックシアターの効果を検討する

ー演劇的手法を用いた共感性あるコミュニティの醸成による孤立・孤独防止事業ー

代表者: 虫明 元 東北大学医学部、学術研究員、分担者: 虫明 美喜 宮城教育大学教育学部 客員准教授

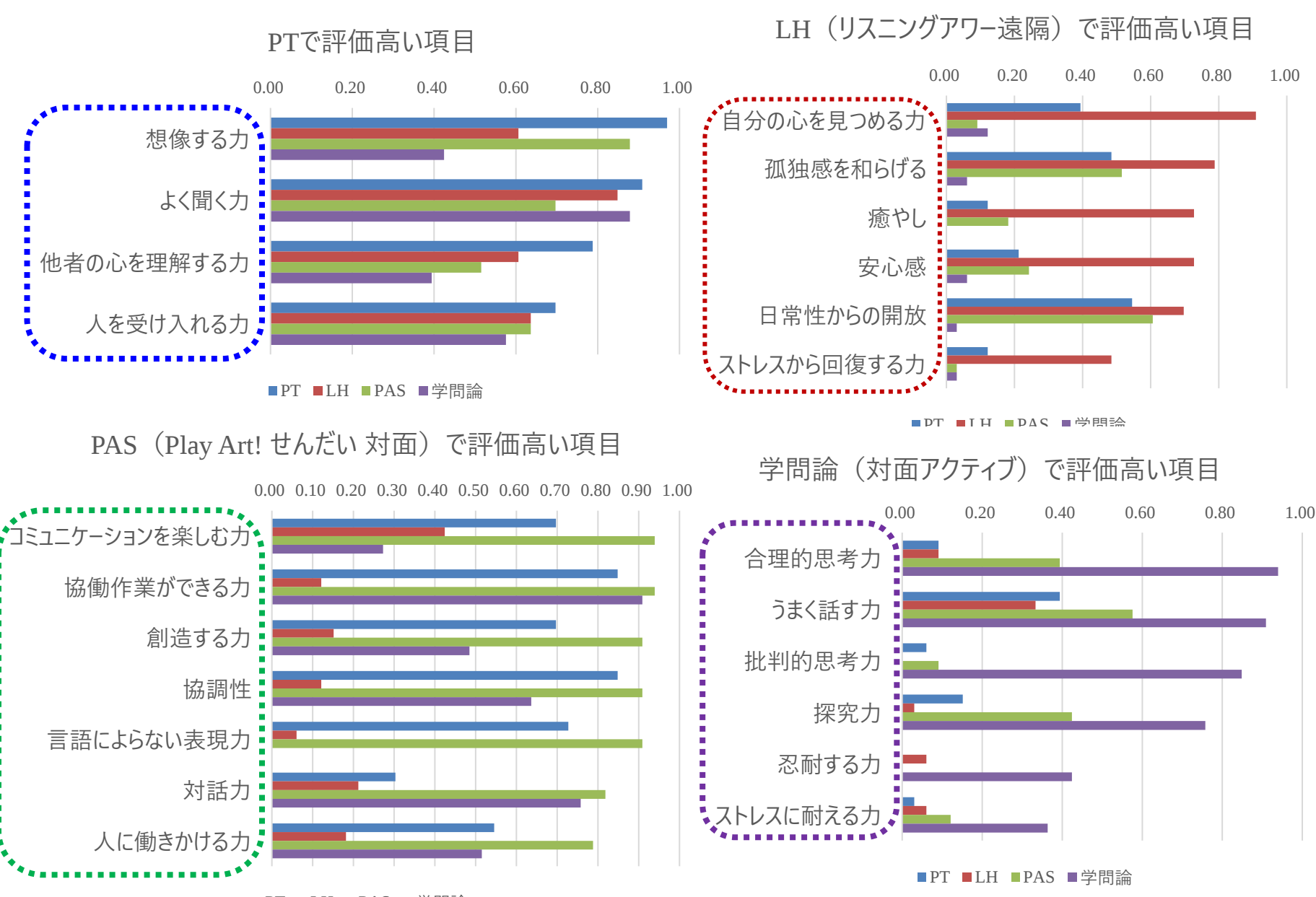
本プロジェクトは、大学生等青年期の学生をターゲットとし、応用演劇の手法を用いて共感性あるコミュニティの回復を目指すものであり、そのために参加者が互いに語り、傾聴し、演じるための安全基地となるような豊かなコミュニティの醸成を目指す社会情動的スキルを育む取り組みを実施する。

1:孤立・孤独メカニズム理解と社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出に関しては、大学生の孤立・孤独状態に関して孤立・孤独と社会関係資本、自己効力感等の特性調査を組み合わせ、孤立・孤独の学生の現状評価と、関連する因子を解明することでそのメカニズムを把握する。並行してリスニングアワー (LH) の導入を拡大する。

2:人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法 (指標等) の開発としては、孤独に関してはUCLAの孤独感尺度、孤立に関してはルーベンの尺度、社会関係資本尺度等の多次元的な社会情動尺及び、BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) 国際尺度を導入して多元的に評価する。

3:社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組みとしては、①のメカニズムとしての学生の孤立・孤独と社会情動性尺度の関係性、②の演劇実践と関連した人間教育による孤立・孤独と社会情動性の尺度の変化を評価し、演劇的手法をコミュニティ活動に活用できるファシリテーターを育成する。

プレイバックシアター、リスニングアワー、Play Artせんだい、学問論 (アクティブラーニング) の比較 (PT,LH,PAS,学問論)



一般教育でのアクティブ・ラーニングと演劇的手法を用いた方法では、学生の評価が異なっている。

議論、討論を行うアクティブラーニングは、合理的思考、批判的思考は育まれるが、孤立・孤独防止に関わる安心感、コミュニケーションを楽しむ力、自己の心を見つめる力を得る効果はあまり期待できなかった。

演劇的手法では、安心感を含め自分を見つめる、他者を受け入れるなど、社会情動性の側面が評価されている。

特にプレバックシアターは他者を受け入れる力が身につくと学生は評価した。(宗像佳代と小森亜紀がPT指導)

リスニングアワーは、5-6人が遠隔で集まり、ガイドの進行のもとで、互いの経験を話し、相互にそれを聴きあう時間である。このような試みも孤独感低下に寄与することがわかった。(ガイドは小森あき担当)

多文化間PBLでのBEVIの前後比較では、コミュニケーション能力としての他者へのアクセス以外に、自己へのアクセス、グローバルアクセスも増加しており、自己への共感性の醸成が示唆される。

社会情動尺度でん関しての前後比較では、①社会効力感、②本来性Authenticity ③社会関係資本の対面でのボンディング、ブリッジングが増加していた。一方では、孤独感低は低下しており、知人交流が減少しているのは予想外であったが、授業内での人間関係は、深まっており、解釈には検討を要する。

協力者である小森亜紀が中心となて行われた全国版リスニングアワーの効果としては、孤独感低下が見られた。その孤独感低下に関わる因子としては、ネットでの社会関係資本、自己開示、が共通して関係していた。また学生版で導入した、本来性authenticityは大きく自分らしくあること、それを自分でも認められる能力が重要であることが示唆された。

「本当の自分」は、英語では一般にAuthenticity (本来性) と表現され、本当の自分として自分の中核的な側面に沿って行動することと捉えられる。Alex M. Wood等の開発した尺度は、①オーセンシティ生な生き方、②自己疎外、③外的影響の受容からなるオーセンシティの三者概念を測定するように設計され裏付けられた。

Authenticity本来性はウェルビーイングの最も基本的な側面と見なされている。さらに、オーセンシティからの逸脱は、精神病理を増大させるものと見なされる。

結論・要約

- ①プレイバックシアターを用いた教育は、いわゆるアクティブラーニングや、他の演劇手法と異なる、他者を受容する、理解する力を育むと示唆された。「Enacting dialog through stories」すなわち、個人のストーリーを演じることによる対話が他にない特徴である。
- ②BEVIの解析では演劇を用いた教育前後で、他者へのアクセス以外に、自己へのアクセス、グローバルなアクセスも醸成されていた。
- ③社会情動尺度の中では、社会的効力感、本来性Authenticity、社会関係資本が醸成されていた。
- ④リスニングアワーでは孤独感低下が見られ、それには社会関係資本、自己開示が関与し、Authenticity (本来性) が関与していた。本来性はウェルビーイングの最も基本的な側面と見なされているので、この育成は重要な目標になると考えられる。

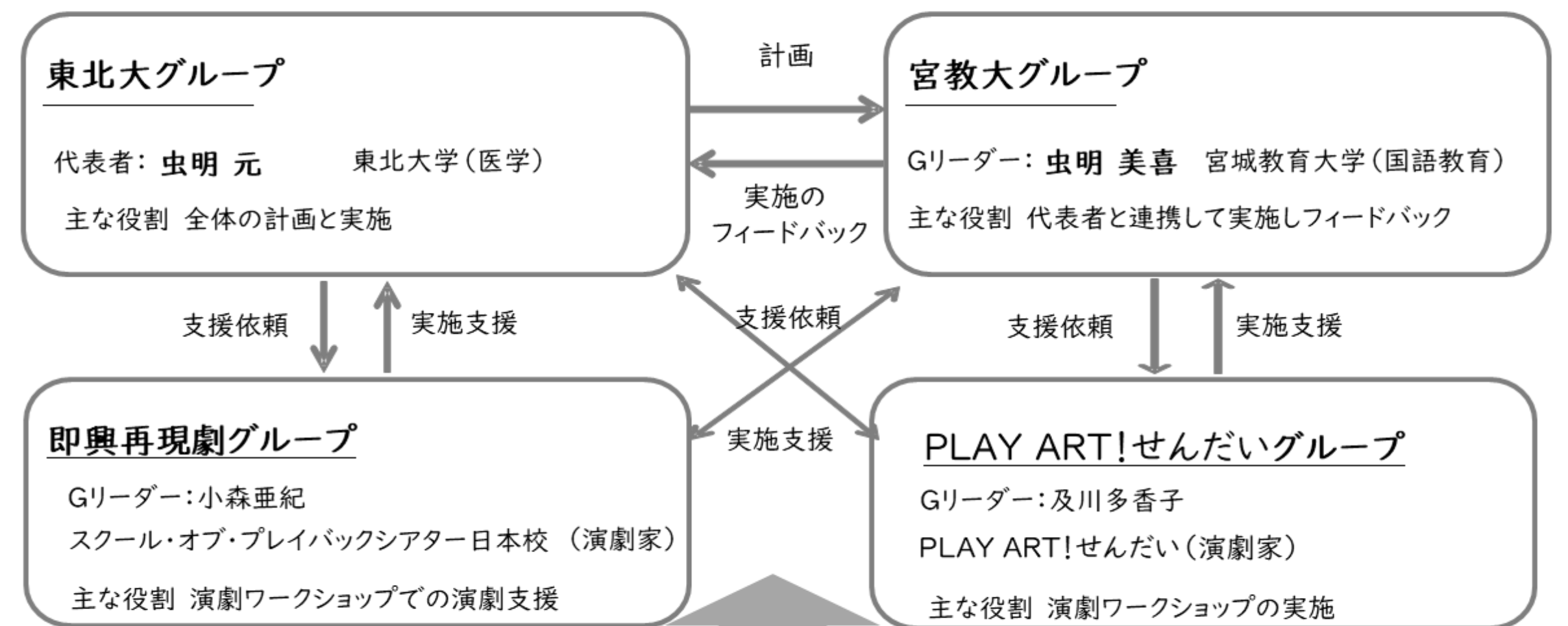
演劇的手法によるコミュニケーション教育により、社会情動性を育み、人間関係を構築、拡大できるように、人間科学的な講義をブレンドした授業を設計・実践指標化する

・ **演劇的手法とは**
…Sharing a story by acting through co-creation and nourishing compassionate mind
共創し演じることで、物語を共有し、共感性を醸成する

・ **マインドセット**
Secure Base 安全基地
Spontaneity 自発性
Yes and 協働性
Playfulness 遊び心
Diversity 多様性
Equality 公平性
Inclusion 包摂性



研究開発プロジェクトの実施体制



演劇関連
宗像佳代: スクール・オブ・プレイバックシアター日本校校長 (活動の国内展開、国際展開に関する助言)
荒井真澄: ボイストレーナー (発声、呼吸法、姿勢に関する指導助言) 大河原準介: 演劇企画集団 LondonPANDA 菊池佳南 (PLAY ART! せんだいと連携して演劇ワークショップ実施)
Office 風の器・庄崎隆志 (ノンバーバルコミュニケーションに関する指導助言)

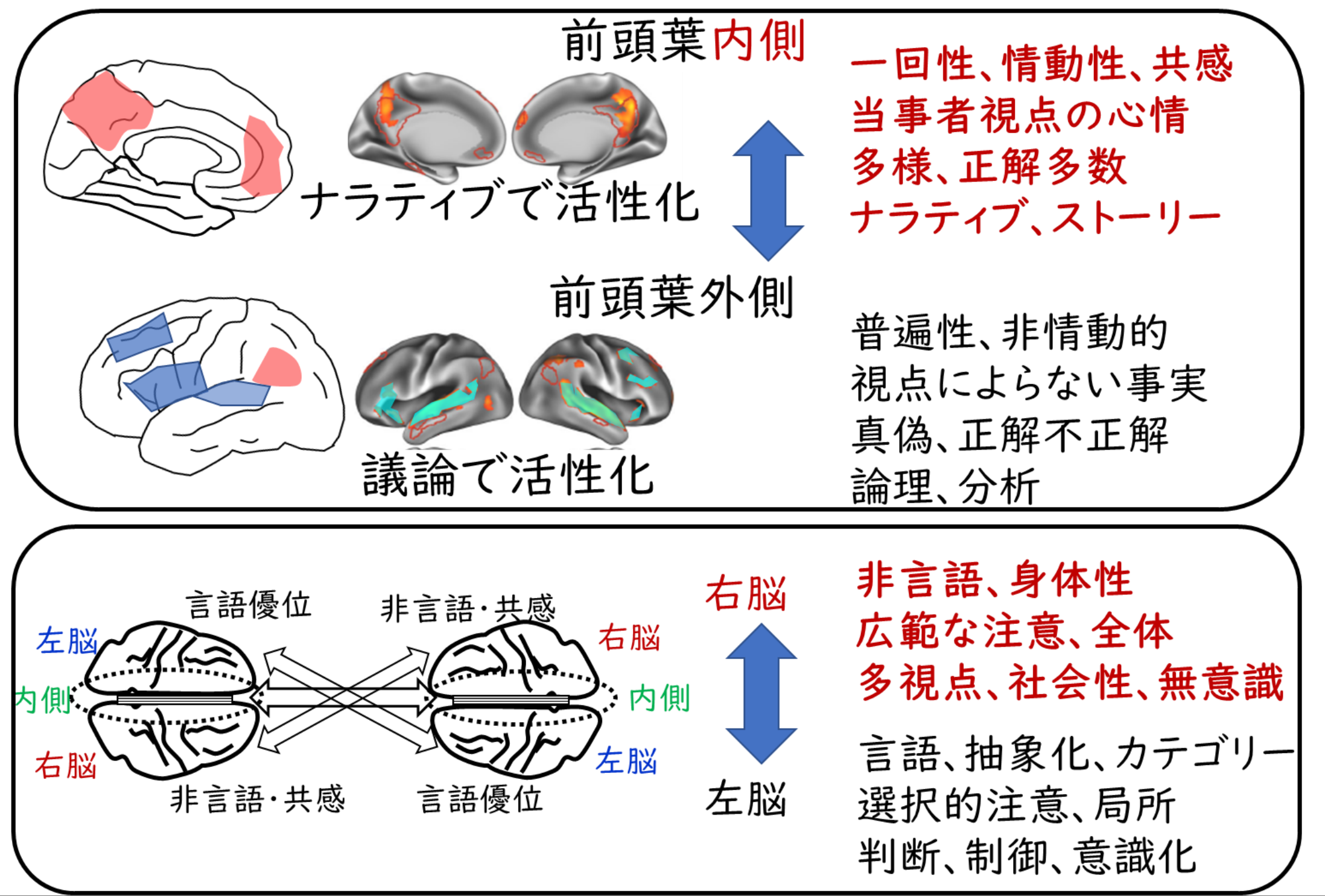
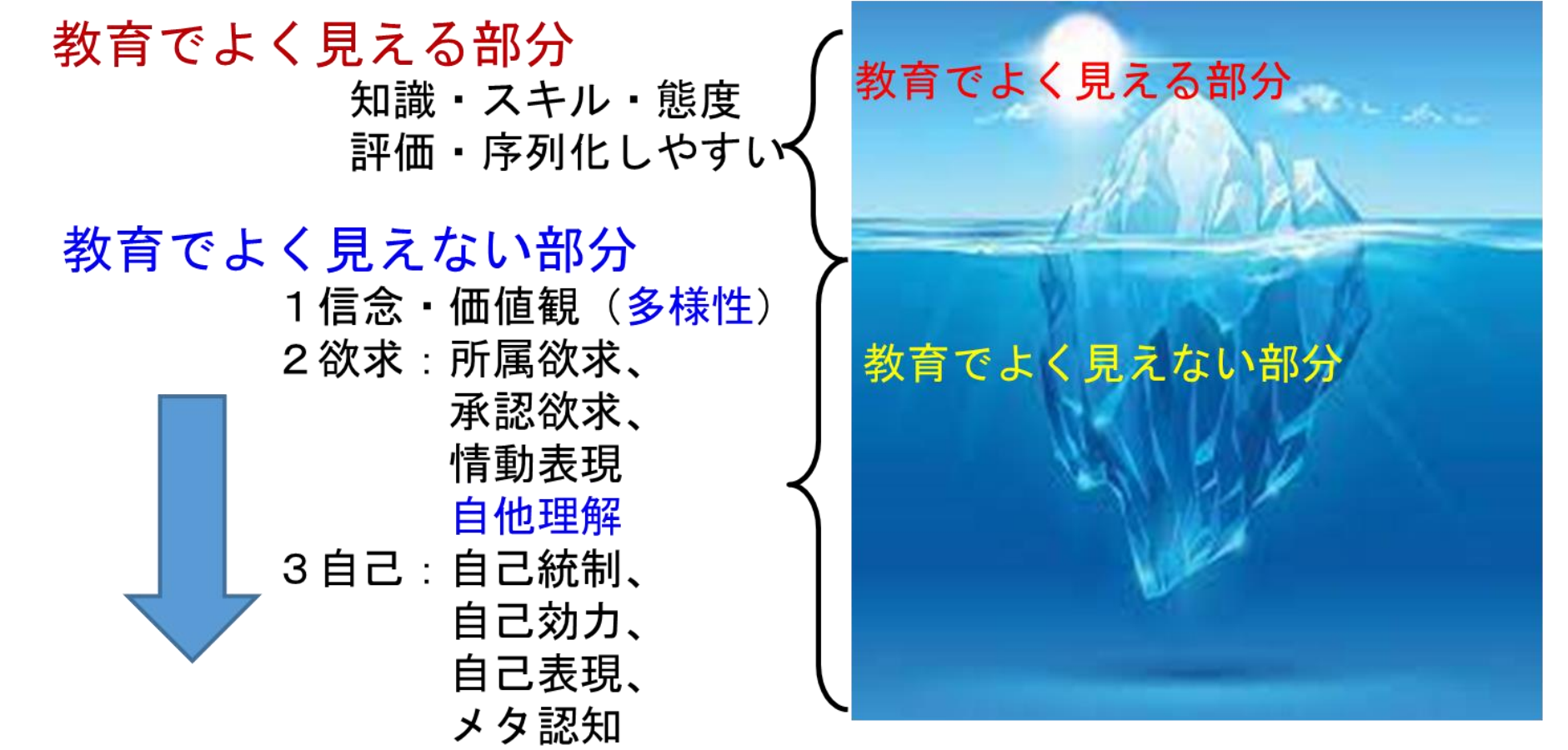
協力者
学生・教員・演劇家のファシリテーターを育成し協力者として随時参加

教育関連
東北大学、宮城教育大学、宮城学院女子大学 (実践の場の提供と教員・学生との連携) 吉田綾乃: 東北福祉大学・福祉心理学教授、宮城大学、早坂晴子: 宮城県仙台向山高校教諭、甲地香央里: 宮城県東松島高校、小原健: 宮城県仙台第一高等学校、本田朋、伊藤 恵: 仙台育英学園高等学校 (実践の場と教員との連携)
ハル東高等学校 (表現科教員と演劇教育に関する助言)、里見まり子: 元宮城教育大教授 (即興ダンスに関する実践と理論)、堀田 智子: 宮城学院女子大学学芸学部 日本文学科 准教授 (実践の場と教員との連携)、藤井直敬: デジタルハリウッド大学大学院 卓越教授 (ウェブコンテンツツビアート)、小野寺江利子: ハル看護専門学校 副校長、押谷裕子: 東北多文化アカデミー代表理事 (実践の場の提供と教員・学生との連携)

Jonathan Fox: Founder of Play Back Theater & Listening Hour (NY USA)
Nisha Sajjani: Director of the Drama Therapy MA program at NYU

BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory)

専門知、スキルとは異なる非専門的、暗黙的な **社会情動的・身体的表現能力** を育成しているのではないかと



社会関係資本では相互の信頼関係は価値があり資本と考える (ソーシャル・キャピタル)
・信頼関係は人のネットワークを生み出す (Bridging と Bonding)
・**Bridging**はグループ間の壁を越えた、**Bonding**はグループ内の親密さ
・信頼関係は、単に個人と個人だけでなく周囲の (外部への) 波及効果があり、**外部性 (Externality)** によぶ、・悪影響は**負の外部性**、良い影響は**正の外部性**がある。

